

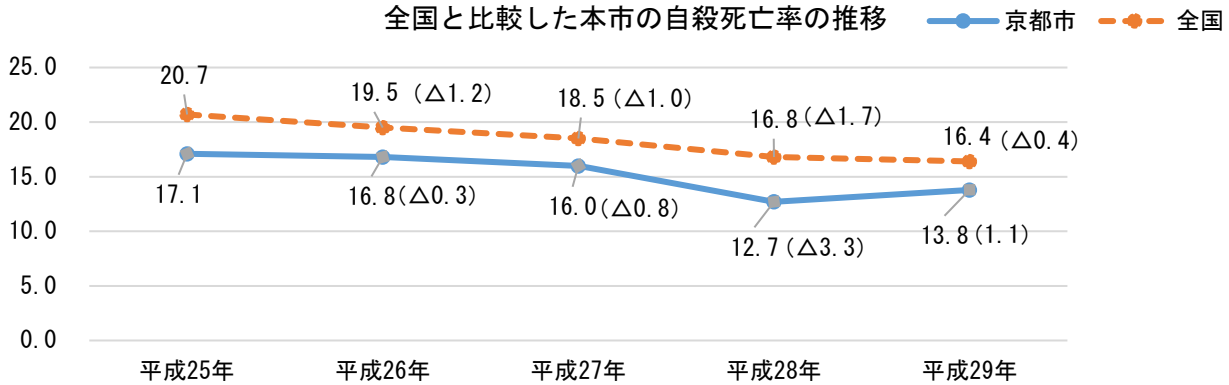
1 人口動態統計に基づく自殺者数と自殺死亡率（10万人対）について

(参考) 全国の自殺の状況

	H25	H26	H27	H28	H29
自殺者数	252	247	230	187	203
自殺死亡率	17.1	16.8	16.0	12.7	13.8

	H25	H26	H27	H28	H29
自殺者数	26,063	24,417	23,152	21,017	20,465
自殺死亡率	20.7	19.5	18.5	16.8	16.4

※厚生労働省「人口動態統計（確定値）」より作成。



2 警察庁統計から見える本市の自殺の特徴

(1) 指標ごとの自殺死亡率と全自治体におけるランク

H25 ~29 合計	京都市自殺率	ランク	全国自殺率
総数	16.6	—	18.4
男性	23.0	—	25.9
女性	10.8	—	11.2
20歳未満	2.5	★	2.4
20歳代	20.0	★	19.0
30歳代	16.6	—	19.1
40歳代	20.6	—	22.2
50歳代	23.9	—	25.9
60歳代	19.9	—	22.4
70歳代	21.6	—	24.4
80歳以上	16.4	—	25.4
若年者(20~39歳)	17.9	—	18.5
高齢者(70歳以上)	19.5	—	24.3
勤務・経営 ^{注)}	13.2	—	15.7
無職者・失業者 ^{注)}	30.4	—	35.6

注) 特別集計に基づく20~59歳を対象とした自殺率

	京都市自殺率	全国自殺率
男性	20歳未満	3.9
	20歳代	30.2
	30歳代	23.4
	40歳代	26.7
	50歳代	30.2
	60歳代	25.2
	70歳代	29.2
	80歳以上	24.4
	女性	20歳未満
20歳代		8.9
30歳代		10.1
40歳代		13.5
50歳代		15.8
60歳代		10.8
70歳代		15.6
80歳以上		12.5

★ランクは全市区町村中、上位20~40%に入ることを示す。

※出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2018）」

(2) 性別・年代別・職業の有無で分類した自殺者数（不詳の数を除く。）の上位5区分

H25~29 合計	男性		女性	
	京都市	全国	京都市	全国
1位	70歳代無職	40歳代有職	70歳代無職	70歳代無職
2位	20歳代無職	70歳代無職	40歳代無職	60歳代無職
3位	60歳代無職	60歳代無職	50歳代無職 [㊟]	80歳以上無職
4位	40歳代有職	50歳代有職	60歳代無職 [㊟]	50歳代無職
5位	40歳代無職	30歳代有職	80歳以上無職	40歳代無職

※自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2018）」から作成。

㊟同数

(3) 20歳未満・20歳代関連

ア 全国と比較した本市の児童・生徒等の自殺者数及び自殺割合について

児童・生徒等 (全年齢)	京都市 (H25～29 合計)		全国 (H25～29 合計)	
	自殺者数 (人)	自殺割合※ ¹ (%)	自殺者数 (人)	自殺割合※ ¹ (%)
中学生以下	6	6.9	553	13.1
高校生	8	9.2	1,118	26.5
大学生	66	75.9	1,999	47.4
専修学校生	7	8.0	547	13.0
合計	87	100.0	4,217	100.0

※出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル (2018)」

※¹ 児童・生徒等の自殺者数に占める割合。

イ 全国と比較した本市の20歳未満・20歳代の自殺者数及び自殺割合について

	京都市 (H25～29 合計)					全国 (H25～29 合計)				
	中高生以下	大学生・専修学校生	有職者	その他	計	中高生以下	大学生・専修学校生	有職者	その他	計
20歳未満	14 (42.4)	12 (36.4)	7※ ¹ (21.2)		33 (100)	1,671 (62.0)	432 (16.0)	322 (11.9)	270 (10.1)	2,695 (100)
20歳代	0 (0)	58 (36.5)	56 (35.2)	45 (28.3)	159 (100)	0 (0)	2,014 (16.6)	5,861 (48.4)	4,224 (35.0)	12,099 (100)

※自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル (2018)」から作成。

※¹ ある1つの欄につき5人未満であり公表不可であるため、複数の欄を合算して処理した。

(4) 40歳代・50歳代女性関連

全国と比較して自殺死亡率が高い区分 (性別, 年齢階級, 同居人・職業の有無で24区分に分類)

区分	自殺者数 5年計	自殺率 (10万対)	全国 自殺率	背景にある主な自殺の危機経路の例※
女性 40～59歳有職同居	27	7.2	6.3	職場の人間関係+家庭間の不和→うつ状態→自殺
女性 40～59歳有職独居	11	17.0	13.5	職場の人間関係+身体疾患→うつ状態→自殺
女性 40～59歳無職同居	73	16.1	16.0	近隣関係の悩み→家族間の不和→うつ病→自殺
女性 40～59歳無職独居	25	42.7	44.0	夫婦間の不和→離婚→生活苦→うつ状態→自殺

※生活状況別の自殺に多くみられる全国的な自殺の危機経路を例示したもの。

※出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル (2018)」

3 まとめ

- ・以上から、「①20歳未満・20歳代」及び「②40歳代・50歳代の女性」については、更なる施策を講じていく必要が高いと考えます。「①20歳未満・20歳代」については、学生に対する対策だけではなく、有職者及びその他についても合わせて施策を講じていくことが必要です。